

担い手の経営のライフステージに応じた支援

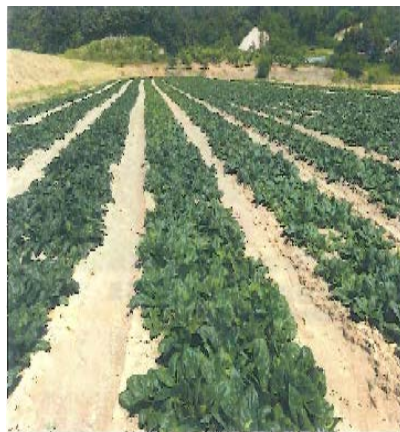
タイトル 新規就農支援および作目転換・冷凍加工野菜供給の取組み

JA名 旧JAたむら（現JA福島さくら）（福島県）

1 動機 （経緯）	当JA管内の田村地区の農業生産基盤は震災以降縮小を余儀なくされています。とりわけ、基幹産業であった葉たばこは、原発事故の影響で作付を見合わせて以降、生産者の大幅な減少により大きな打撃を受けており、営農モデルの再構築が必要となっていました。
2 概要	上記の課題解決に向け、当JAは作目転換による新たな経営モデルの構築に向けて、研修用パイプハウスを利用した新規就農者研修事業（ハウストマト栽培）や、学校給食等への冷凍加工野菜供給事業（ほうれん草等）への取組みを開始しました。 なお、農林中央金庫福島支店は、これらの事業に必要なパイプハウスおよびほうれん草収穫機の導入費用に対し助成を行っています。
3 成果 （効果）	大きな打撃を受けた葉たばこ生産からの作目転換による地域農業の復興や、避難指示が解除された地区へのノウハウ等を展開することで、被災地の復興が期待されます。 また、新規就農者への技術・経営に関する研修事業を行うことにより、地域農業の担い手確保とスキルアップが期待されます。
4 今後の予定 （課題）	作目転換を一層推進するため、冷凍加工用野菜の種類拡大（ブロッコリー、コマツナ、インゲン等）、新規就農研修受講者の継続的な募集等により、引き続き地域農業の復興に取り組みます。



田村地区のトマト



冷凍加工用ほうれん草



新規就農研修用パイプハウス